

イスラム教の国に住むということ

2010年11月14日 (Zenit.org)

ロドリック博士とのインタビュー。(キースロデリックはエписコパリアンの牧師で、Coalition for the Defense of Human Rights の事務総長である)

迫害された教会のために働き始めたのはいつですか。またこの仕事で最初に得た成果はなにですか。

「23年以上前からです。私はソ連で宗教的理由のために投獄されていた人々を助けるイギリスのある組織で働いていました。囚人の家族に物資を送り、強制収容所に入れられた身内に手紙を書くように助けていました。ソ連邦が崩壊すると、同じことをイスラム諸国の監獄につながれているキリスト者や他の宗教者のためにするようになるとの依頼が届き始めました。そこで、私たちは最初にエジプト、パキスタン、次にレバノン、最後にイラク、イラン、スーダンを対象にして働くことになりました」

イスラム世界に住むキリスト教徒の根本的な問題点は何ですか。

「第一に、少数派であることです。少数派であることからくるすべてのハンディーを背負っています。雇用における権利や他の社会的権利において差別を受けています。イスラム諸国の少数派として、dhimmi の刻印を押されます。

それはどういうことですか。

法で定められた二流の市民ということです。イスラムでは、dhimmi とは、宗教の実践を認められる代わりに「ジズヤ」を貢納する異教徒のことです。彼らは軍役を免除されます。これが唯一の利点でしょう。Dhimmi は非常に屈辱的な身分で、少数派を多数派の下に服属させるための手段といえます。それは侮辱的で非人道的な制度で、少数派に属する人々から人間としての基本的尊厳を奪うものです。そして、民族浄化などの暴力的な行動を助長しています。

この点に関してイスラム教徒の目指すところは何ですか。

自分たちの社会をイスラム化することです。これは国民にシャリア(イスラム法)を押し付ける - 時には非イスラム住民にも - ことで、無数の問題を生んでいます。その底にある目的は、きわめて保守的な正統イスラム思想を復活させることです。

1900年には中近東の人口の20%がキリスト教徒でした。今日では2%に届きません。この人口の減少の理由は何ですか。

少数派、特にキリスト教徒を対象とした圧力のせいだと思います。彼らは、社会に属さない外来の邪魔者であると多数派からレッテルを貼られるのです。本当は彼らも土着の人間です。キリスト教徒はイスラム教徒よりも前からあの土地に住んでいました。自分の国で邪魔者の外国人にされるのは、肩身の狭いことですよね。

しかし、それは時々起こる暴力事件 - 先日のイラクでの教会襲撃事件のような - だけでなく、政府と社会の組織における差別をも引き起こしています。昨今のイスラムの復興とともに、この種の圧力は強化され、現状を20世紀よりもさらに悪化させています。

正真正銘の迫害に近づく差別にはどんな具体例がありますか。

制度化された差別に共通する形の一つは、身分証明書に始まります。エジプトを筆頭にイスラム諸国では、身分証明書に当人が属する宗教を書かねばなりません。これが意味するところは、就職や教育や、結婚においてさえ、自動的に制限を受けるといことです。イスラム教かキリスト教かユダヤ教かを言わねばなりませんから。これはナチスの黄色のバッジに匹敵するコントロールの手段です。

宗教迫害を考えると、頭に思い浮かぶことは何ですか。

キリスト教徒であるということだけで命を失ったたくさんの人々のことを思います。たとえば、ピビアンというイラクの15歳の少女のこと。彼女はある日、学校から帰宅する途中で拉致されました。両親はその午後、身代金を要求する電話を待っていました。娘の命を救うためなら何でもする覚悟で。そして、電話が鳴りました。母親は「欲しいものを言ってください。何でもしますから」と言うと、相手は「われわれはお前たちの金など欲しくない。おまえたちの心を破壊したいだけだ」と答えました。

この答えが家族にどれほどの苦悩を与えたことでしょうか。数日後、ピビアンは変わり果てた姿（切断され、・・・）で町の広場に捨てられ、家族にはそれを収容するよう電話が入ったのです。（下略）

そのことはコーランの教えなのですか。

コーランには何も回答はありません。そしてこのような状況が今も続いています。エジプトでは治安警察は、誰かを逮捕すると三日間拷問にかけます。Lazoughly の警察庁には二つの部門があります。一つはイスラム過激派を扱う部門、もう一つはキリスト教徒を扱う部門です。そして、頻りにキリスト教徒、中でもイスラムからの改宗者を逮捕します。それは、過激派だけを圧迫しているのではなく扱いが公平であると主張するためです。しばしばその最初の三日間の拷問は激しいもので、逮捕者の名前がわからなければ、牢獄で消されたからと考えられます。

イラクのことをもう少し話して頂けますか。この国では公然とキリスト教徒を迫害しているからです。この国のキリスト教徒の数は、イラク戦争の前と比べると半分以下になりました。彼らの国からキリスト教徒を追放しようとしているのですか。

はい。暴力行為の中には、もちろん、場当たりのものがあります。しかし、大多数は本当にキリスト教徒を国外に追い出すために行われています。たとえば、バグダッドのドラ地区には2004年には2万家族のキリスト教徒が住んでいましたが、2006年には土地を手放さないでおこうとする千人くらいしか残っていません。民兵たちがバグダッドの連合軍と戦うためにこの場所を基地にしましたが、それは民族浄化のプログラムでもありました。あのキリスト教徒たちの多くは、この一年半ほどの変化のために、北部に移住しました。それゆえ、モスルやキルクク、あるいは二ネベの平地にはもっと問題が起こっています。その地域の小さな村々は、アルカイダが基地をそこにおき、モスルに戻ってキリスト教徒を盾として使っていると言っています。

どうして、キリスト教徒はそれほど簡単に迫害の対象になるのでしょうか。

それはイラクの解放後、民兵たちに武器を放棄するよう命じられましたが、アッシリア民兵以外はその命令に従わなかったからです。キリスト教徒は無防備になったのです。村人の保護を引き受ける独立した警察はありません。

さらなる情報は、www.ain-es.org, www.aischile.clを参照。(下略)

パキスタン：冒涇罪で死刑判決を受けたキリスト教徒の女性

イスラムバード、2010年11月11日 (Zenit.org)

Asia Bibi は、37歳、農業に従事する女性で二人の子供の母であるが、パキスタンで冒涇の訴えで死刑判決を受けた最初の女性となった。

彼女は仕事場で数人の女性からイスラムへの改宗を迫られ、議論のなかでイスラムの悪口を言ったかどで訴えられた、とアジアニュースは伝える。

パンジャブの裁判所がこの日曜日の午後に出した判決は、Ittanwali で2009年に行われた口げんかに端を発している。その口論の中で、キリスト教を捨てるようにとのしつこい要求に対して、アジア・ビビはイエスが人類の罪のために十字架で死んだと話して、それに対してマホメットは彼女たちのために何をしたのかと尋ねたが、これが冒涇となったのである。パキスタンの刑法によれば、コーランを侮辱するものは禁固刑、預言者マホメットを侮辱すれば死刑となる。

イスラム教徒の女性たちは、アジアを殴り、部屋に閉じ込めた。Release International という福祉団体の説明では、群集が集まってきて、アジアと子供たちに暴言を吐き始めた。(中略)

アジアにはまた、二年半分の給与に当たる罰金を科せられた。

この判決に関して、パキスタンの司教団の正義と平和委員会の事務局長ペーテル・ジャコボは、Fides 通信に「キリスト教徒は、反冒涇法の恣意的な使用による攻撃に晒されている」と訴えた。「偽りの訴えが絶えず、我々は危惧を感じている。この2ヶ月で少なくとも五件あった。残念なことに、なんら変化はないように見える。パキスタン政府は、この法律を修正する気はまったくない。これは深刻な事態である。今回のケースは、まったくの人権と真理を踏みしめるもので、この判決を覆し控訴するために何でもするつもりだ」

この木曜日のL'Osservatore Romanoが言うように、「反冒涇法」は1980年と86年の間に発布され、イスラム教を保護することを目的としている。この法のために、インターネットのいくらかの箇所も影響を受けている。

1986年から2009年の間に、964人がコーランかマホメットを冒涇したかどで逮捕された。このうち479人がイスラム教徒、119人がキリスト教徒、340人がアフマディー教徒、14人のヒンドゥー教徒、残りの10人はこれ以外の宗教である。

反冒涇法は、原理主義者たちから、少数派宗教(パキスタンでは人口の4%)を攻撃するための手段としてしばしば使われている。

アジア・ビビ救助のための国際的キャンペーン

イスラムバード、2010年11月16日。

世界中の多くのカトリックの組織や人権擁護団体が「冒涇」の容疑で死刑判決を受けたキリスト教の女性の救助を求めてキャンペーンを始めた。

アジア・ビビは、2009年、「預言者マホメットを侮辱」したと同僚によって訴えられた。その罪はパキスタンでは現行の「冒涇禁止法」のために、禁固刑か死刑に値するものとなっている。

このパキスタン人女性は5人の母親で、パンジャブの裁判所で行く11月7日に絞首刑の判決を受けた。

パキスタンの教会は、「正義と平和」委員会を通して、彼女の助命を求めると同時に、「反冒流法」の撤廃を求めてキャンペーンを始めた。この法律は、少数派を、なかでもキリスト教徒を攻撃する手段となっている、とイスラムバード＝ラワルピンディの司教 Rufin Anthony 師は言う。

アジアニュース通信は、パキスタンの大統領 Asif Zardari に抗議の手紙を送るキャンペーンを呼びかけ、現在のところ全世界から 4 万通の E メールが届いている。

また、「貧しい教会への援助」は、類似のイニシアティブをフランスとイタリアで始め、スペインの NGO 団体 HazteOir はマドリーのパキスタン大使館の前で祈りの集会を呼びかけた。

アジア・ビビの住んでいるラオールの補佐司教 Bernard Shaw 師は、教皇ベネディクト 16 世に直接電話をし、「無実の女性の命を救うためにあらゆるレベルで声を上げるよう」世界に呼びかけて欲しいと頼んだ。

同司教は、「キリスト教徒とイスラム教徒がともに平和と調和のために働き、宗教的熱狂に対して立ち向かい、さまざまな共同体の間の軋轢を避けようとする組織がある」パキスタン社会の中に同種の世論や運動が起こることを期待していると言う。

(中略)

女性の連帯

アジア・ビビと同じ町 Nankana では、最近政府の建物の前でビビの助命を訴える女性たちの行進があった。

パキスタンカトリック女性の会の会長 Rosemary Noel が Fides 通信に語ったところによると、「今回のケースは、行政の側も司法の側もほとんど事実を調査していません。残念ながら、弱者を打ち負かそうとする強者の論理がまかり通っているのです。パキスタンでは、有力者は警察にも司法（特に第一審）にも影響力を持っています。そのために裁判は不透明か、時には明らかに不正です。その上に、少数派を押しつぶすような圧倒的な多数派の数の論理があるのです。キリスト教徒は二重の苦しみを受けています。

人権擁護の活動家、イスラム教徒の女性 Saman Wazdani は「反冒流法をすぐにでも撤廃する必要がある」ことを認めるが、「司法の構造を根本から改革する」必要も認めている。

前例

冒流罪で訴えられた最初のキリスト教女性はアジア・ビビ以前にもいる。しかし、この犯罪で死刑判決を受けたのはこれが初めてである。

Fides 通信によれば、Zaibul Nisa という 60 歳の女性は、14 年の禁固刑の後に先月釈放されたが、近所の人にコーランを侮辱したと訴えられ、証拠不在のまま投獄された。

2007 年 5 月、イスラムバードのマドラサ（高等教育機関）の数人のイスラム教徒の女子学生が、近所にある「パキスタン医学研究所」の数名の女子学生を冒流罪で訴えた。当局は、研究所を二週間の間、閉校にし、所長と 4 人のキリスト教女子学生を逮捕した。Fides 通信によれば、その訴えは、キリスト教徒女性に教育を受ける権利を奪おうとしようとしたものだという。

2005 年 6 月には、カラチでキリスト教の書物売る書店をもつサンパウロ女子修道会のシスター数人が、冒流罪で訴えられた。それはその書店で売っている CD やビデオは冒流であって、イスラム教徒を改宗させる目的で使われているからだというのである。修道女たちは、たびたび脅迫を受けた。